

学修者本位の教学マネジメントに向けて 共愛学園前橋国際大学における 学修成果可視化の取組を事例に

大森昭生



共愛学園前橋国際大学
共愛学園前橋国際大学短期大学部
KYOAI GAKUEN UNIVERSITY / JUNIOR COLLEGE

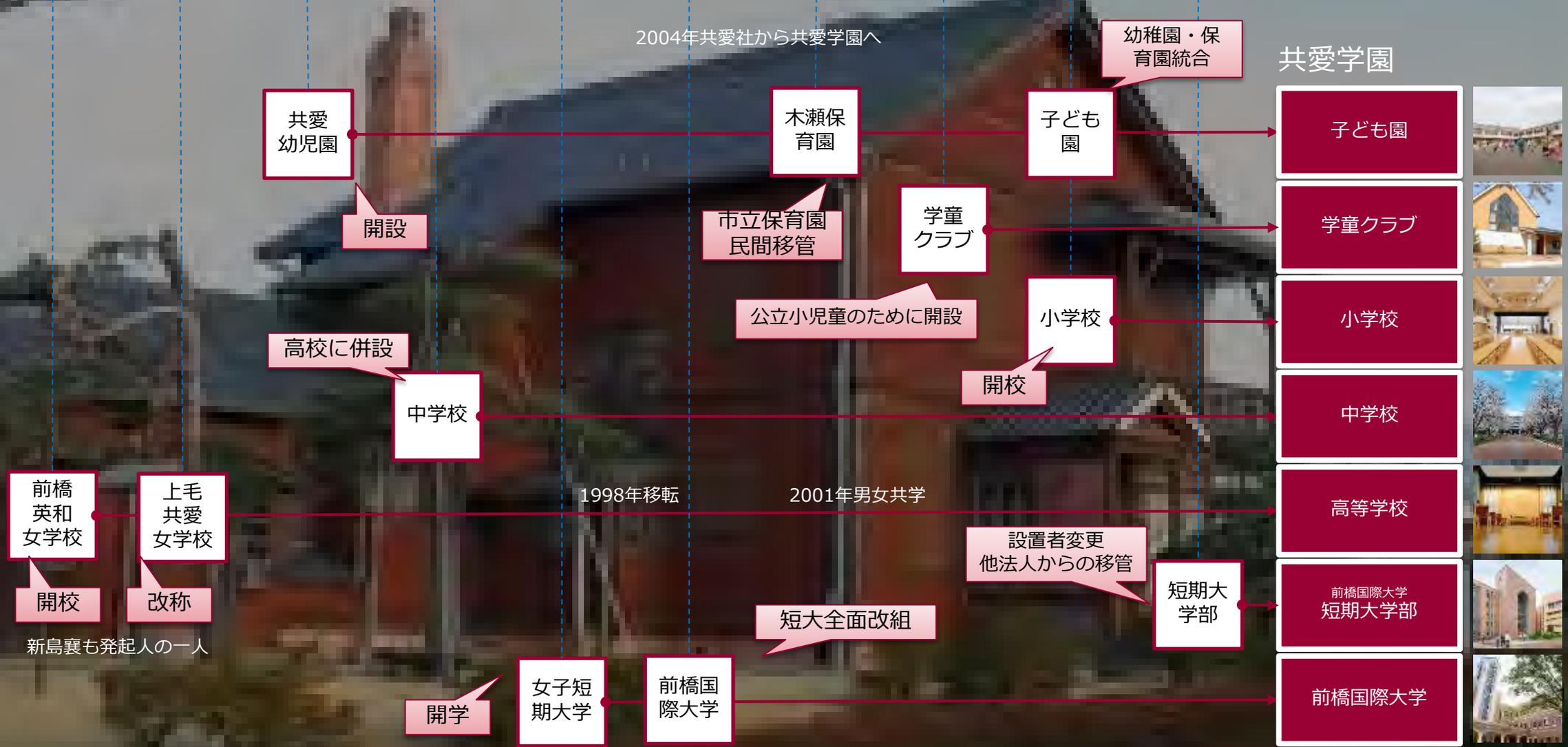
明治21年

100周年事業

110周年事業

130周年事業

1888 1889 1939 1947 1988 1999 2009 2011 2016 2021



共愛学園



赤城山

0歳～シニアまで、約3300名の
園児・児童・生徒・学生
が学んでいます。

短期大学部は
市中心部に

こども園

中学・高校

学童クラブ

大学

JR駒形駅

学園総合グラウンド

小学校

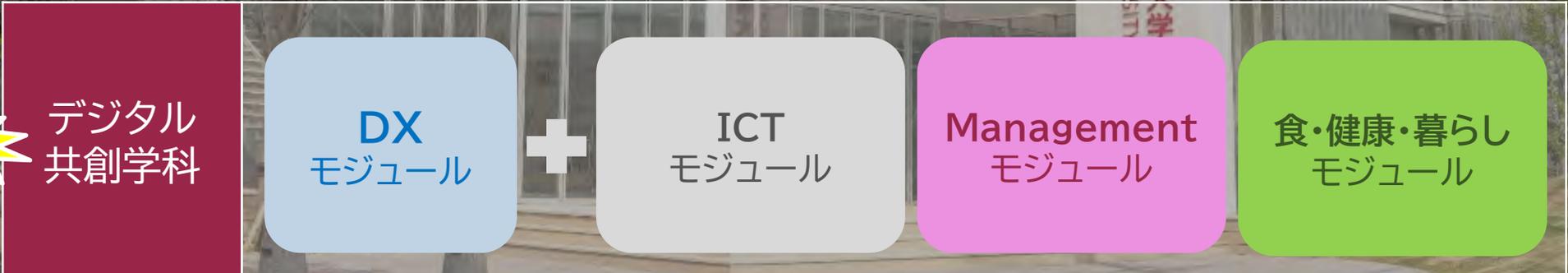


理 念	共愛＝共生の精神
定 員	入学定員350名（国際社会250名+デジタル共創100名）

国際社会学部 GLOCALリーダーへ ～国際的な視野を持ち、地域の諸課題に対処できる人材～

国際社会 学科	国際社会 専攻	英語コミュニケーションコース English Communication Course
		国際コース International Course
		経営コース Business Management Course NEW
		心理・人間文化コース Psychology, Humanity and Culture Course
	NEW 地域児童 教育専攻	学校教育コース School Education Course
		幼児教育・保育コース Early Childhood Education and Care Course

デジタル共創学部 デジタル共創人材へ～デジタル技術を活用し、他者と共にWell-Beingな社会を創造できる人材～





共に愛し共に生きる
KYOAI GAKUEN UNIVERSITY

地域の未来は私がつくる

Faculty of International Social Studies

社会の未来は私たちがつくる

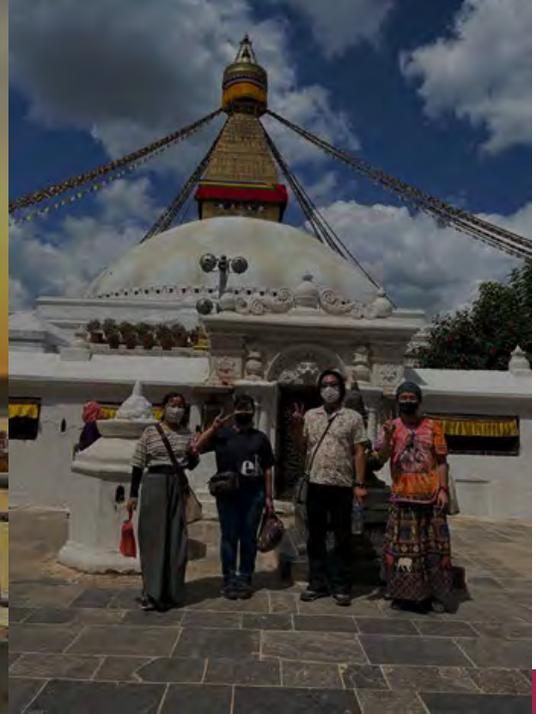
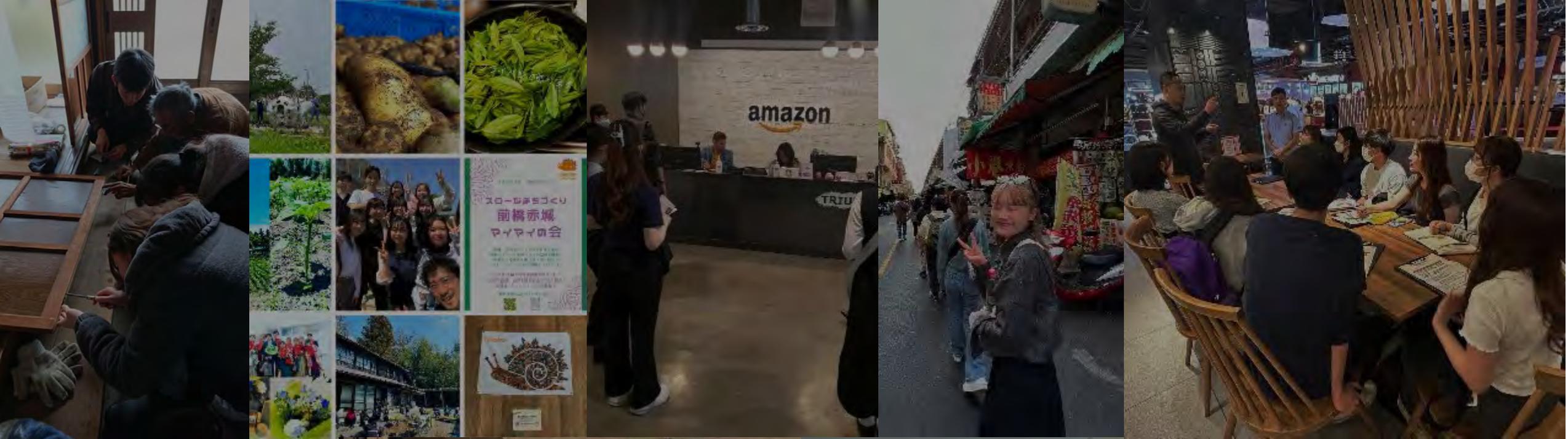
Faculty of Co-Innovation



GLOBAL + LOCAL = GLOCAL
&
WELL-BEING



ACTIVE LEARNING



OFF-CAMPUS

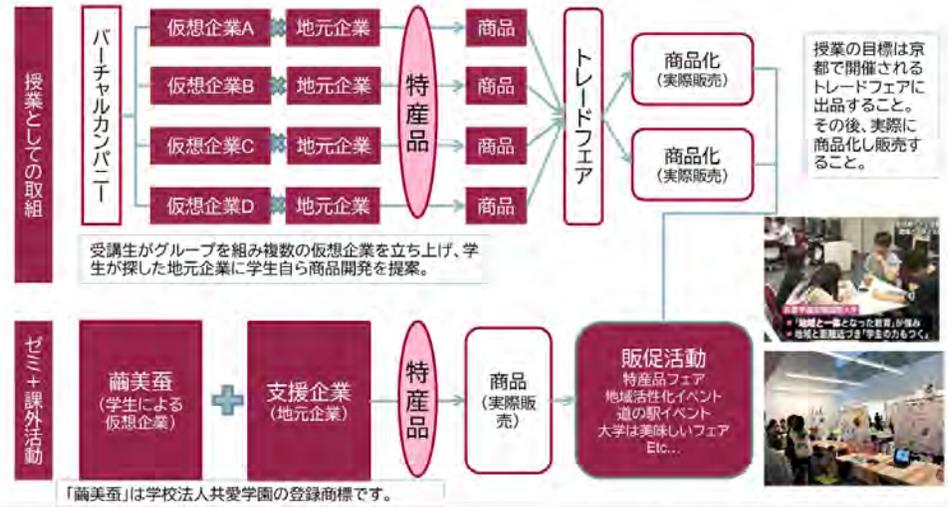
Glocal Seminar

- 2年生必修 通年
- コース混合30名クラス編成
- 3名の教員がTeam Teaching(教員もコース混合)
<英語コミュ・国際・情報経営・心理人間文化・児童教育>
- Data Driven な地域課題解決演習(地域PBL)



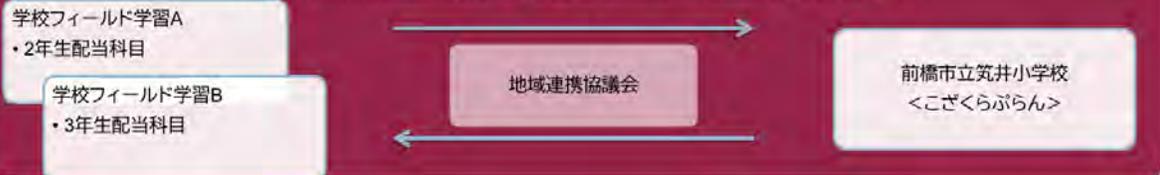
学生による地元特産+地元企業との商品開発PBL

■「バーチャルカンパニー」(1・2年生対象)という授業の中で特産品を活用した商品開発を行うプロセスと、仮想企業「蒔美蚕(まゆみさん)」という学生団体(中心となるゼミ+有志)が行うプロセスとがある。
 ■「蒔美蚕」では、授業で商品開発を経験し、3・4年生になっても活動を続けたい学生が所属し、授業で商品化された商品の販売の継続や独自の商品開発を行う。



学校フィールド学習(教育支援SL)

共愛学園前橋国際大学—教育交流協定—前橋市教育委員会



- 学生が1人1週間小学校へ「勤務」。
 年間を通して学生が常駐することに。職員室には学生用の机が...
- 先生方のお手伝いであり、教育実習とは違う。学校支援事業の一環。
 こざくらプラン: 前橋市の教員増補事業が「さくらプラン」。それをもじって、学生は先生方に「こざくらさん」と呼ばれる。
- 3年生と2年生のセットで、ノウハウを伝授。
- 学期ごとに、小学校の先生方が大学に来てGWで振り返り事後研修。



長期インターンシップ(地域SL)
 4か月間、大学に通う代わりに市役所や企業、NPOへインターンに

地域の孫になる→2025年度から学生プロジェクトへ発展



Creating the Future of Our Community 共愛学園前橋国際大学

Supporting the Well-being of Our Community 共愛学園前橋国際大学短期大学部



前橋市長特使として気仙沼に訪問も

去年から前橋国際大の学生フィールドワーク

- <https://kyoaislowcity.jp/>
- <https://www.instagram.com/p/CY4Q4pxJ3y7/>
- <https://www.akagi-trip.com/news/kokosukimas2020/>

予測困難な時代に
幸せな生涯を生きてほしい



共愛学園前橋国際大学への注目

6位

学長が教育面で注目する大学
(過去7年連続4~5位)

- 1位 金沢工業大
- 2位 国際教養大
- 3位 国際基督教大
- 4位 東京科学大・東北大
- 6位 共愛学園前橋国際大**
- 7位 立命館アジア太平洋大
- 8位 芝浦工大
- 9位 立命館大
- 10位 筑波大

10位

学長が総合的に注目する大学

- 1位 東北大
- 2位 東京大
- 3位 京都大
- 4位 東京科学大
- 5位 金沢工業大
- 6位 立命館大
- 7位 大阪大
- 8位 国際教養大
- 9位 国際基督教大
- 10位 共愛学園前橋国際大**

1位

学長が注目する学長
(4年連続)

- 1位 共愛学園前橋国際大**
- 2位 筑波大
- 3位 早稲田大
- 4位 東京科学大・東北大
- 6位 津田塾大
- 7位 慶應義塾大
- 8位 立命館アジア太平洋大
- 9位 広島大
- 10位 北海道大・国際教養大

『大学ランキング2026』(朝日新聞出版)

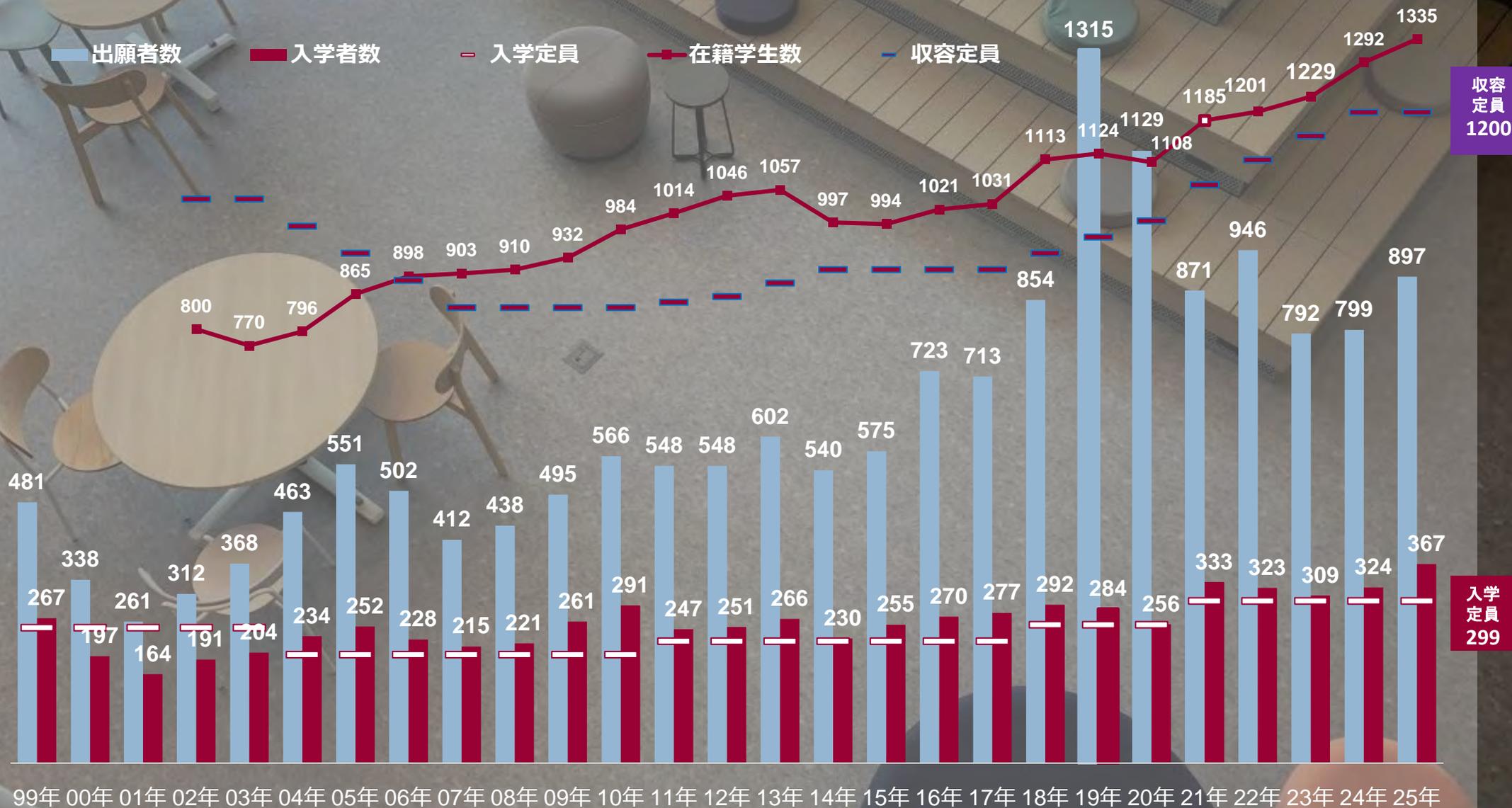
5位

2022年 進路指導教諭が評価する
教育力が高い 関東・甲信越地区
(東京除く)の大学

- 1位 筑波大
- 2位 新潟大
- 3位 神田外語大
- 4位 宇都宮大
- 5位 共愛学園前橋国際大・横浜国立大**

(大学通信)

在籍学生数・出願者数・入学者数推移



本学の取り組みが紹介されている事例集や書籍

「大学等における「教職協働」の先進的事例に係る調査」

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1403495.htm

「「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の実現に向けて」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingichousa/shisetu/062/1417904_00002.htm

新たなる大学像を求めて

共愛学園前橋国際大学はなぜ注目されるのか

出版社：IN通信社 (2019/11/14)

地域で学び、地域を支える。

大学による地方創生の取組事例集

https://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/chihoujirei.html

先進的大学改革推進委託事業「高等教育段階における遠隔教育の実態に関する調査研究」

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1418400_00002.htm

今選ぶなら、地方小規模私立大学！

～偏差値による進路選択からの脱却～

出版社：レゾンクリエイト
(2018/10/19)

「教学マネジメントの確立に資する事例の把握等に関する調査研究」

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1418380_00003.htm

平成30年度文部科学白書「特集2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」に「めぶく。プラットフォーム前橋」が事例紹介。

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201901/1420047.htm

地域に愛される大学のすすめ

出版社：三省堂 (2011/7/26)

その他、書籍・新聞・テレビ・雑誌記事等多数



カリスマに 一問一答



全国の学長が注目する学長

1位 共愛学園前橋国際大 **大森昭生**

2位 東北大 **大野英男**

3位 早稲田大 **田中愛治**

4位 筑波大 **永田恭介**

5位 津田塾大 **高橋裕子**

朝日新聞出版「大学ランキング2023」「大学ランキング2024」「大学ランキング2025」学長からの応援ランキング注目する学長





「世界に羽ばたかない」大学でも人気の納得理由、 地方の小規模大学が生き残る術 全国の学長が注目する学長・大森昭生氏に聞く

日本には現在813の大学があり、その77%が私立大学だ（文部科学省「令和6年度学校基本調査」）。日本私立学校振興・共済事業団によると、2024年度に入学者が定員割れした4年制の私立大学は354校、全体の59.2%で過去最高だという。少子化で大学を取り巻く環境が厳しくなる中、共愛学園前橋国際大学は地方の小規模大学ながら、在籍学生数が過去最高を更新し続けている。一度は入学定員割れの危機に陥りながらも、なぜ人気大学へと復活を遂げることができたのか。学長の大森昭生氏に話を聞いた。

東洋経済

私立大学の5割が定員割れ、1年間で約90校なくなる？「自分だけ生き残ればいい」という発想捨て
《地方大学同士が連携》する意味

吉田 暎：フリーライター

2026/01/04 6:00

+ 著者フォロー ブックマーク 印刷 A+ 拡大 f x n B!



共愛学園前橋国際大学学長の大森昭生氏。中央教育審議会大学分科会委員や地域大学振興に関する有識者会議の座長を務める。（写真：共愛学園前橋国際大学）



NHK おはよう日本
(2024年11月20日)



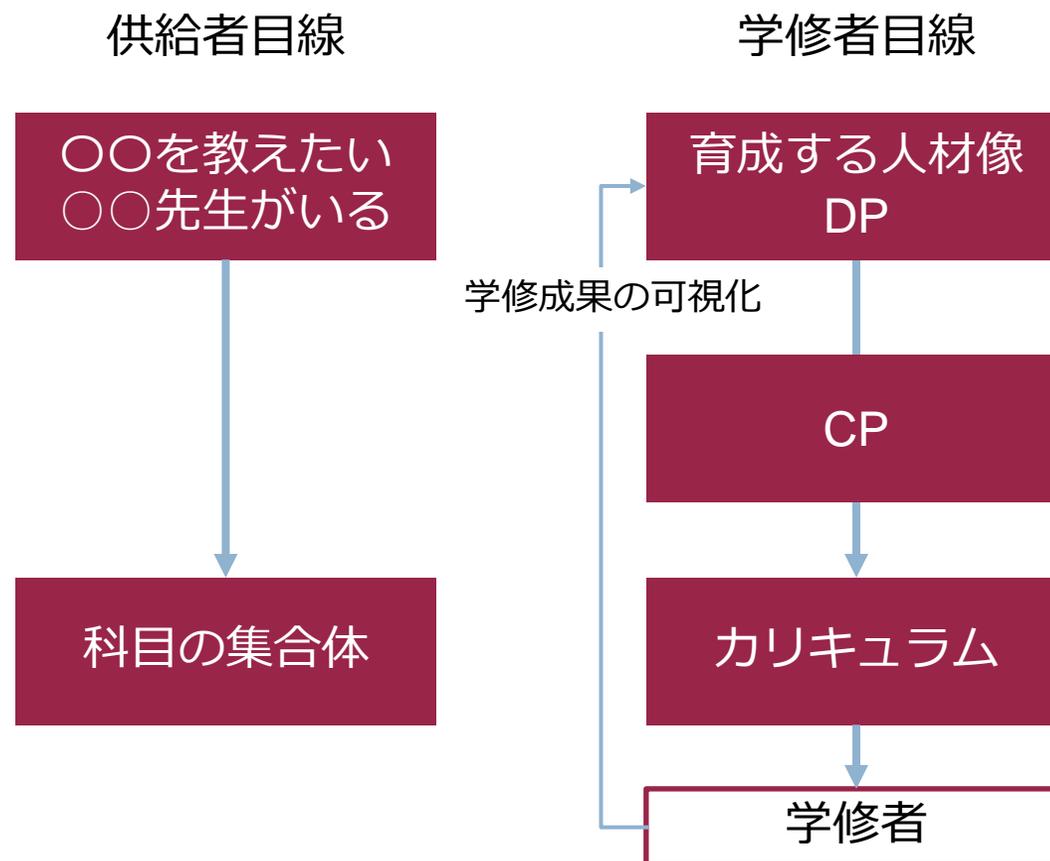
NHK 時論公論
(2025年5月22日)



TBS Nスタ
(2026年1月4日)

学修者本位

学修者本位の教育の実現のためには
大学の時間構造を
「供給者目線」から「学修者目線」へ
転換するという視点が特に重視される。



教学マネジメントの本丸＝学修成果の把握・可視化

学修成果・教育成果の把握・可視化は、学修者本位の教育を実現する観点から、一人一人の学生が自らの学びの成果(学修成果)として身に付けた資質・能力を自覚できるようにすることが重要である。このため、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を可視化されたエビデンスとともに自ら説明できるように複数の情報を組み合わせた多角的な形で行われることが必要である。また、大学が、学位プログラムを通じて同方針に定める資質・能力を備えた学生を育成できていること(教育成果)も、学修成果と同様に説明できることが必要である。

教学マネジメント指針（22ページ）

学修成果の可視化の主体
＝学生

教育成果の可視化の主体
＝大学

予測困難な時代を生きるために必要な「共愛12の力」

I 識見

1. 共生のための知識



多様な存在が共生し続けることができる社会を築いていくために必要な知識

2. 共生のための態度



多様な存在が共生し続けることを尊重する考えや行動

3. グローカル・マインド



地域社会と国際社会の関わりを捉え、両者をつなぐことで、地域社会の発展に貢献する姿勢

II 自律する力

4. 自己を理解する力



多様な存在が共生し続けることができる社会を築いていくために必要な知識

5. 自己を制御する力



ストレスや感情の揺れ動きに対処しながら、学びや課題に持続して取り組む力

6. 主体性



人からの指示を待つだけでなく、自らやるべきことを見つけ、行動する力

III コミュニケーション能力

7. 伝え合う力



コミュニケーションにおいて、相手の意図を正しく理解し、自分の意図を効果的に伝達する力

8. 協働する力



他のメンバーと協調しながら、集団として目標に向けて行動する力

9. 関係を構築する力



様々な他者と円滑な関係を築く力

IV 問題に対応する力

10. 分析し、思考する力



様々な情報を収集、分析し、論理的に思考して課題を発見する力

11. 構想し、実行する力

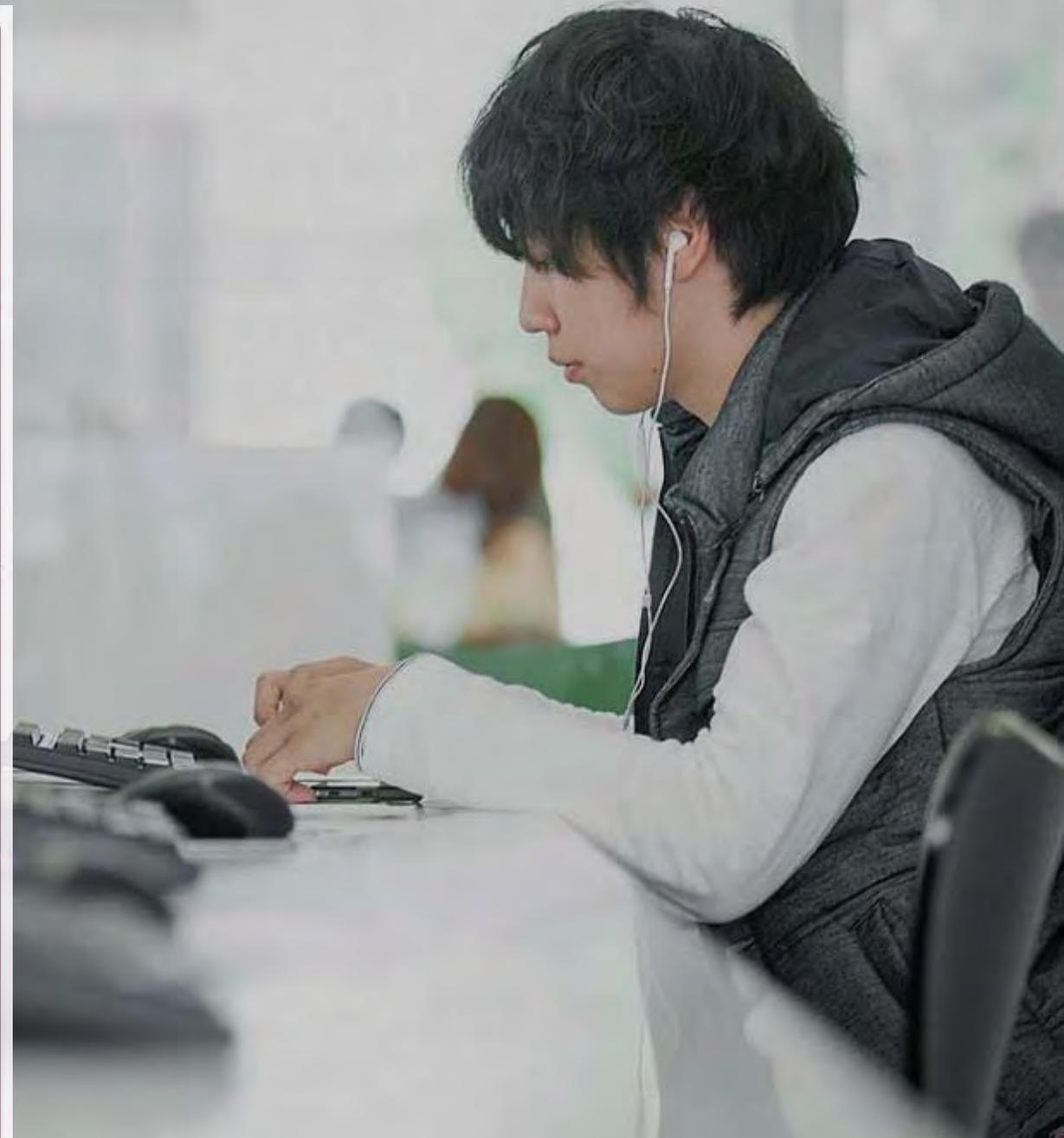


課題に対応するための計画を立て、実行する力

12. 実践的スキル



現代社会において必要な基本的スキルと自らの強みとなる実践的スキル



—KYOAI CAREER GATE—

4年間の主体的な学修とその成果を目に見える形で積み上げ、
キャリアにつなげる。

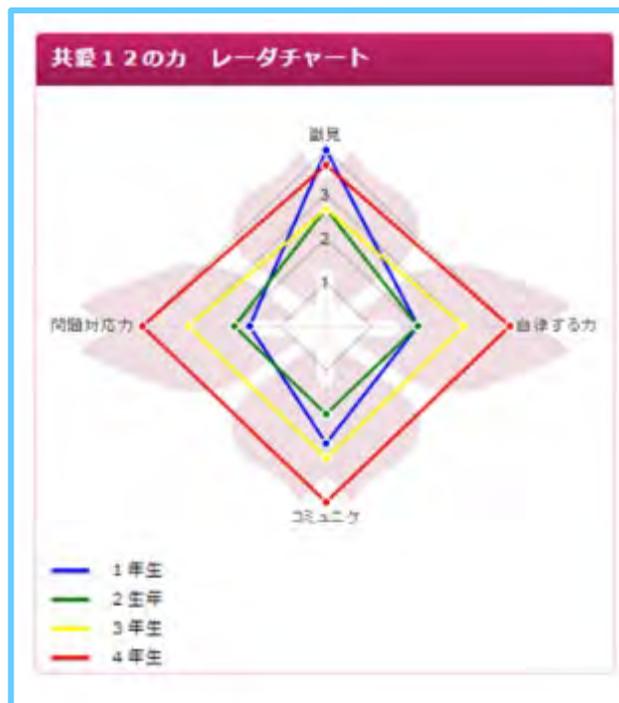
4年間に会うたくさんの学びと活動。その一つ一つを、eポートフォリオである

KYOAI CAREER GATE

に蓄積し、自分の学修を振り返りながら、それをエビデンスとして、学修成果指標に基づく成果の自己評価と可視化をします。さらに、その活動や成果を

SHOWCASE

を通して社会へと発信し、目ざすキャリアへと接続します。



4年間の学修で身に付ける4つの軸と12の力 (学修成果指標)

意見	■ 共生のための知識	■ 共生のための態度	■ グローバル・マインド
自律する力	■ 自己を理解する力	■ 自己を制御する力	■ 主体性
コミュニケーション	■ 伝え合う力	■ 協働する力	■ 関係を構築する力
問題に対応する力	■ 分析し、嗜好する力	■ 構想し、実行する力	■ 実践的スキル

SHOWCASE (KCG+S)

KCGに蓄積した成長の記録を公開履歴書としてキャリアに接続

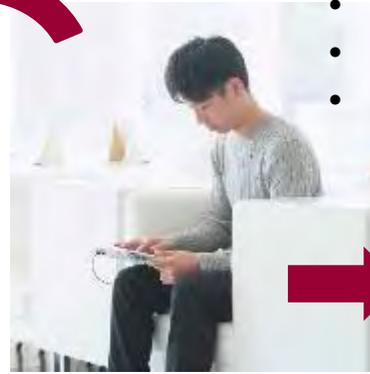
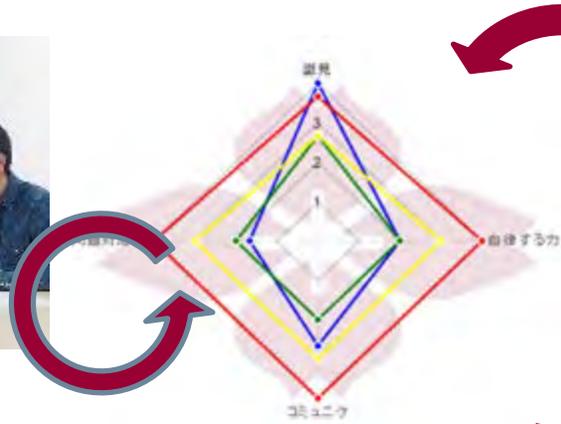
≡ CAREER ≡

共愛学園前橋国際大学がめざす エビデンスベースの自己評価による学修成果の可視化と自律的学修者の養成

リフレクションアワー
+
担当教員との個別面談



リフレクション



- 学修活動の振り返り
- 学修計画の調整・改善
- 学修成果の総括

ショーケース
蓄積した学修の記録を社会に開示する。(WEB上で) 学生自身が制作し、学生の責任において開示。例えば、企業の人事担当者などへ..

共愛12の力の評価規準 (コモンルーブリック) → 自己評価

学生の自主的な取り組みに加え、授業課題やゼミ選択条件とするなどの動機づけも

エビデンスとして学修や活動の記録を蓄積 (ポートフォリオ:KCG)

共愛12の力にリンク

授業での学修

科目	振り返り
〇〇演習	...
△△学	...
□□概論	...

学内活動



学外活動



(参照) 外部テスト



Kyoai Career Gate の実際

自己を理解する力 (2年次)	レベル3:様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に理解することができる。
自己を制御する力 (2年次)	レベル3:ストレスや感情の揺れ動きと上手く付き合いながら、困難な課題に取り組み続けることができる。
主体性 (2年次)	レベル3:自らすべきことを見つけ、行動し、その結果を振り返り、次の行動に活かすことができる。
エビデンスにした活動や授業 (2年次)	ミッショングローバル研修は、異国の地で毎日1つの課題を限られた時間で解決していきました。私は海外に行くのも初めてでそんな中課題を与えられ、辛くストレスに感じることもありましたが、友達と励ましあったりすることで研修に前向きに取り組むことができました。また、チームで活動することが多かったので限られた時間の中で自分は何をすることでチームのためになるのかを常に考え行動することができました。
伝え合う力 (3年次)	レベル3:適切なコミュニケーション手段・スキルを用いて、自分の伝えたいことをわかりやすく表現することができる。
協働する力 (3年次)	レベル3:多様な意見や立場、利害を把握した上で、グループ内の関係性構築に貢献できる。
関係を構築する力 (3年次)	レベル4:自分とは異なる価値観や文化を持つ他者や、バックグラウンドが大きく異なる他者とも円滑な関係を築くことができる。
エビデンスにした活動や授業 (3年次)	インバウンド人材育成PRGでは、学年、コースの異なる学生とチームを組み、活動を行っていたため、活動中は様々な意見やアイデアが出され、新しい考え方というものを学んだ。また、前橋市でインバウンド事業に取り組んでいる市の職員や、フラワーパークの社長など、多くの方々と一緒に活動していく中で、社会人とのコミュニケーションの取り方や、距離感、話し方など、多くのマナーが身に着いた。

KCG+Sの実際 (ショーケース)

KCG+S KYOAI CAREER GATE SHOW CASE 共愛学園前橋国際大学

ハイライト 学内活動 学外活動 取得資格 すべて

2012

2012年夏の前期・後期を通じて活動してきた電子商取引演習の一環として参加した大会で最優秀賞 京都府知事賞を受賞した。

この大会は、日本全国の小学生から大学生までが仮想企業を立ち上げて参加するというものである。それぞれの企業(チーム)が各地の特色を生かした商品やサービスを作り上げ、その成果を発表する。私たちの企業は私を含めた1年生2名、2年生2名計4名で参加し、群馬県の特産品であるこんにゃくイモを使用したつけ麺を出展した。京都大学を会場として行われるこの大会では、実際に対面販売を行い、生のお客様の声を聞くことで「自分たちの活動はここがよかった」「この点はさらに改良する必要があった」等身をもって体験することができた。

私は今回の大会で最優秀賞を受賞することができたが、悔しきの方が多く残っている。それは、商品を売り切ることができなかったという点である。この一年の活動で、もっとも積極的に売り場を巻き込み話し合いや意思決定のスピードを速めることができている。今回よりも売れる商品にできていたかもしれないという後悔が残っている。そのため、来年度も電子商取引演習Ⅱを受講することにより、さらに商品開発や販売することについて学びたいと考えている。

2012

バーチャルカンパニートレードフェア2012 京都府知事賞受賞 学外活動 2012/11/24ハイライト

2012年夏の前期・後期を通じて活動してきた電子商取引演習の一環として参加した大会で最優秀賞 京都府知事賞を受賞した。

この大会は、日本全国の小学生から大学生までが仮想企業を立ち上げて参加するというものである。それぞれの企業(チーム)が各地の特色を生かした商品やサービスを作り上げ、その成果を発表する。私たちの企業は私を含めた1年生2名、2年生2名計4名で参加し、群馬県の特産品であるこんにゃくイモを使用したつけ麺を出展した。京都大学を会場として行われるこの大会では、実際に対面販売を行い、生のお客様の声を聞くことで「自分たちの活動はここがよかった」「この点はさらに改良する必要があった」等身をもって体験することができた。

私は今回の大会で最優秀賞を受賞することができたが、悔しきの方が多く残っている。それは、商品を売り切ることができなかったという点である。この一年の活動で、もっとも積極的に売り場を巻き込み話し合いや意思決定のスピードを速めることができている。今回よりも売れる商品にできていたかもしれないという後悔が残っている。そのため、来年度も電子商取引演習Ⅱを受講することにより、さらに商品開発や販売することについて学びたいと考えている。

共愛学園前橋国際大学が運営する公開履歴システム(ショーケース)です。学修成果や実習記録システムであるKCG(eポートフォリオ)に蓄積された大学生活全般にわたる学びとその学修成果から、学生自身が獲得して表示したものです。学生の学びや経験のエビデンス(証拠)としてご利用ください。

(参考) 課外活動の学外者への報告会で
「共愛12の力」と活動との関連を話す学生

(参考) 視察者との懇談で
「共愛12の力」と活動との関連を説明する
学生スライド



成長した点(共愛12の力をもとに)

識見

- ・情報、経営に関する専門的な知識の向上
- ・社会に出た際の自分の役割を認識

自律する力

- ・様々な経験から新たに自分の特徴、長所や短所などを理解
- ・大きな困難を乗り越える力を習得

コミュニケーション力

- ・考えや思いを人に伝達する力の習得
- ・相手を尊重することで成り立つ関係性の構築に貢献

問題に対応する力

- ・取り組みに対する時間を予測
- ・一つのデータから多くの情報を読み取る力や自分の強みを実践的に使う力の習得

活動を通しての学び

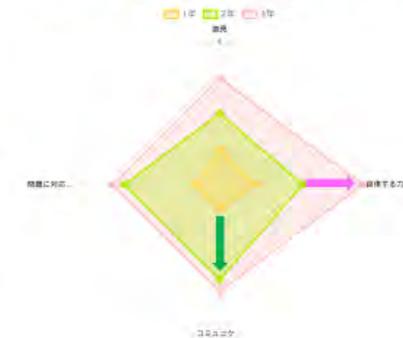
1年次はコロナ禍であったこともあり、活発な活動はできず…

2年次には積極的に活動に参加したこともあり、「コミュニケーション力」が向上

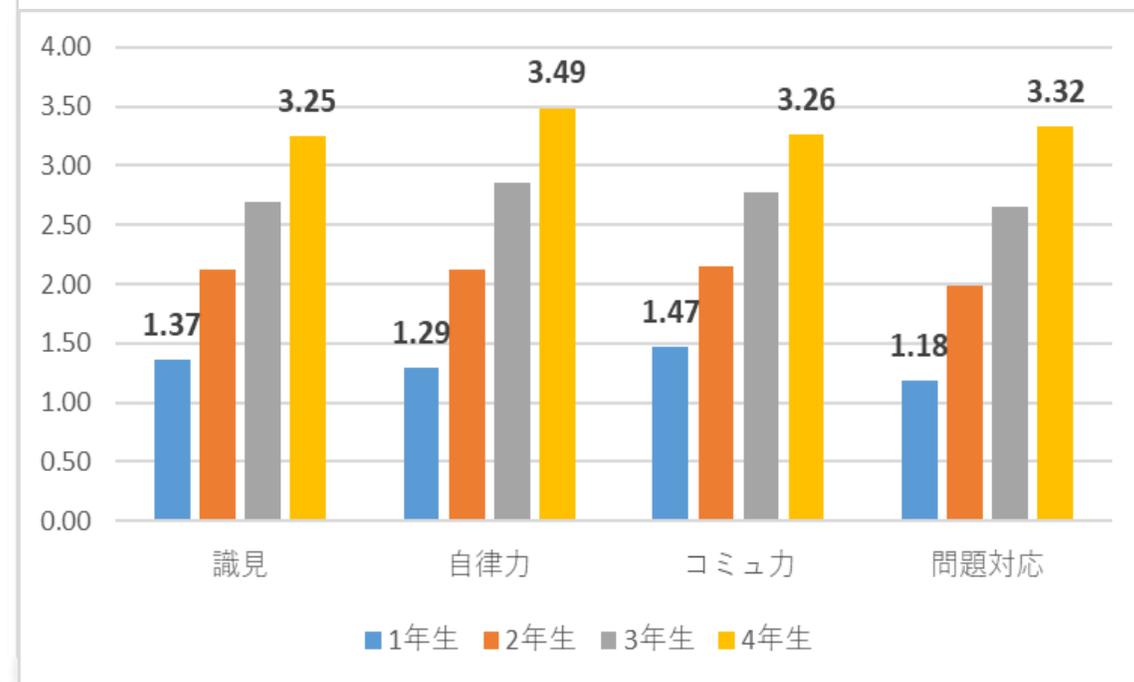
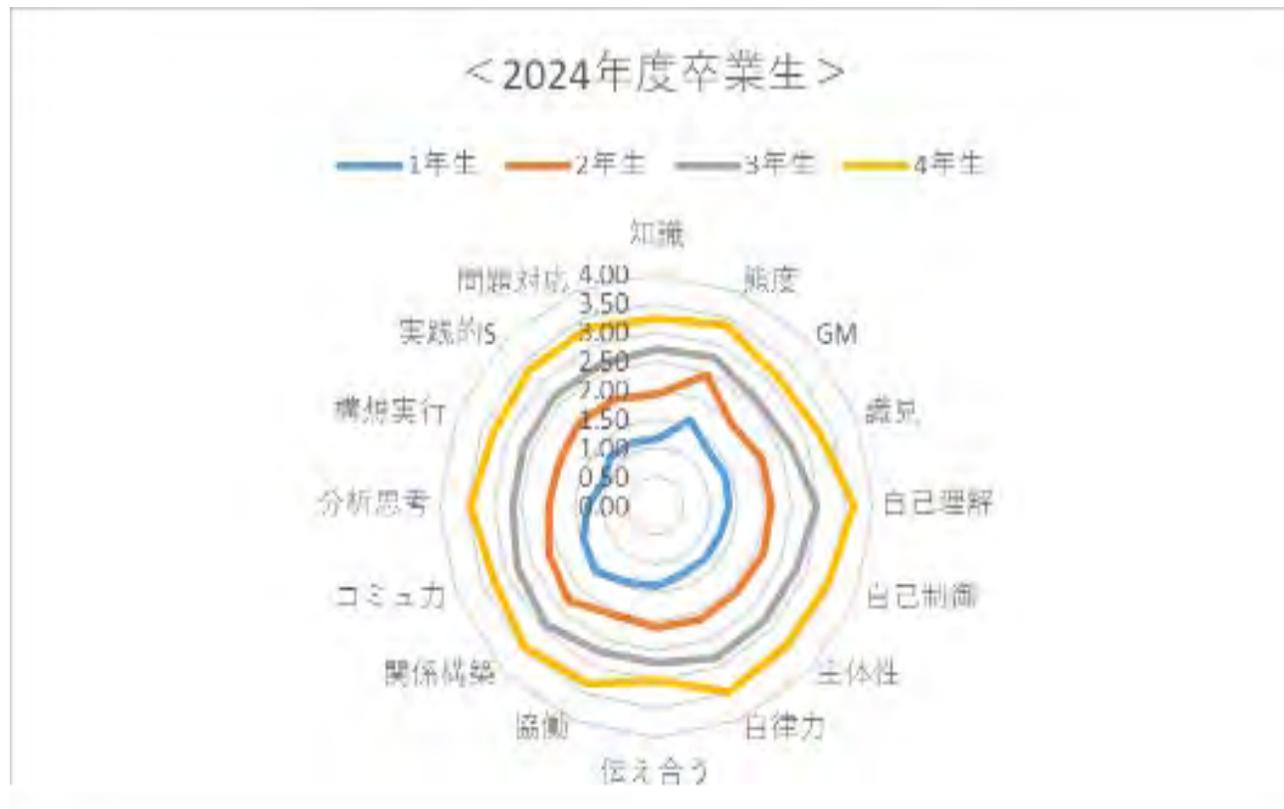
3年次には海外研修や学外でのイベントに参加したことで、自分で考える機会が増え、「自律する力」が伸びた

4年次にはレーダーチャートが均等になるよう力をつけていきたい

KCGにおける共愛12の力をベースとした自己評価結果



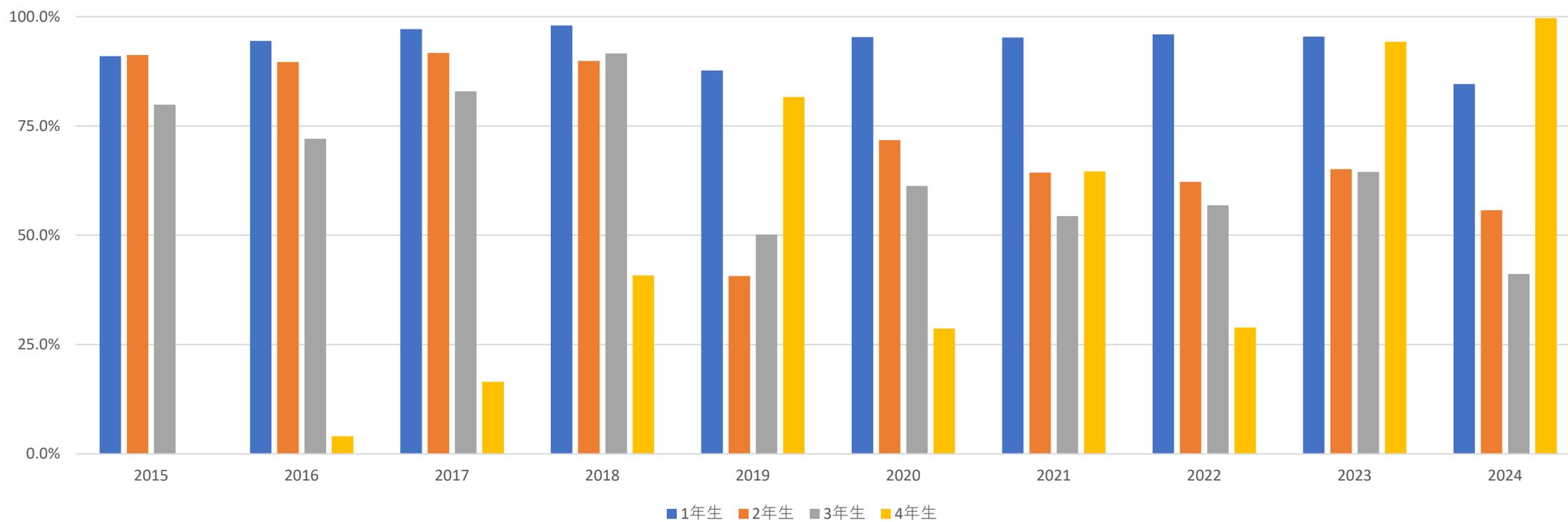
共愛12の力自己評価(2024年度卒業生)





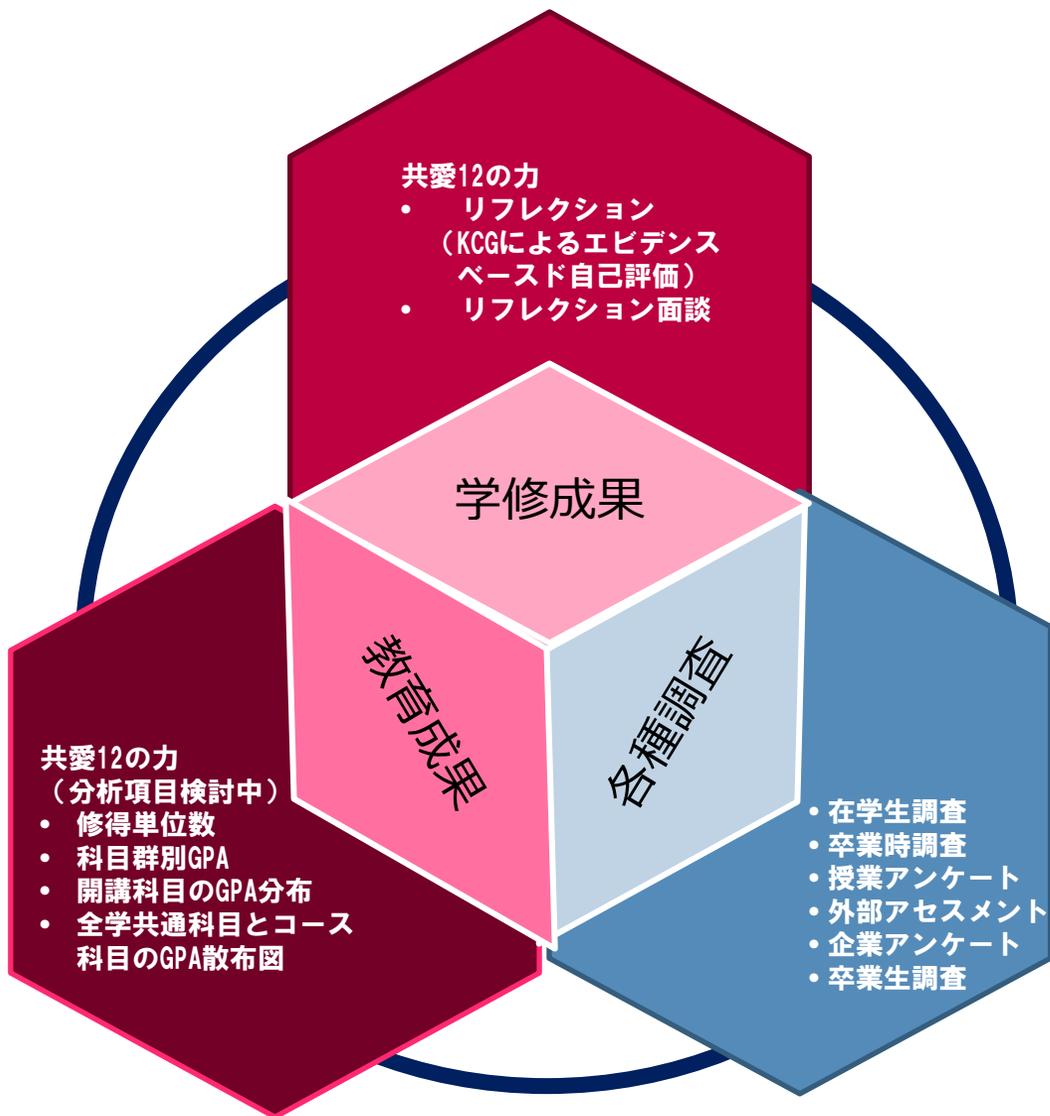
「共愛12の力」自己評価(全項目)記入率

KCG自己評価記入率 (年度別)



2025年度から記入済と見なす基準の厳格化 (バッジ)

学修成果の可視化と教育改善



- 学修成果の可視化（評価）は、学修者のため
- 学修者の成長・学びの現在地を明確にすることで、次の目標に向かって学び続けようとするための補助ツール
- エビデンスベースド自己評価（リフレクション）は「学習としての評価」(Assessment as Learning)
- 本学が3つの側面から可視化を試みるのは、学生の成長・学びと大学の教育が一体となって向上できるエビデンスを提供するため
- その結果が出口の質保証
- これからIRによる学修成果と教育成果の共愛12の力の相関を分析により、教育と評価の一体化と学修と評価の一体化（(Assessment as Teaching and Learning)）が進み、DP達成度の向上に向け、授業レベル、カリキュラムレベルでの改善が新たに見えることを期待している

教学IR部門

教育実践部門
カリキュラム
編成部門

自己点検

内部質保証

学部共通科目による 共愛12の力の質保証

各領域ごとに、12の力の何を身につけるかがカリキュラム上規定されていて、その領域に含まれる科目はどの科目であってもそれらの力を身につけるよう設計される。

よって、シラバスには自動的に定められた力との対応が記載されるシステムが構築されている。

担当教員は、それら規定された力に加えて、それ以外の力を目標に加えることもできる。

すなわち、カリキュラムマネジメント上は124単位で12の力を身につけられることが保証されており、そのうえでKCGを通して学生が自己評価するとともに、124単位以外で身につけた力も加えることができるようになっている。

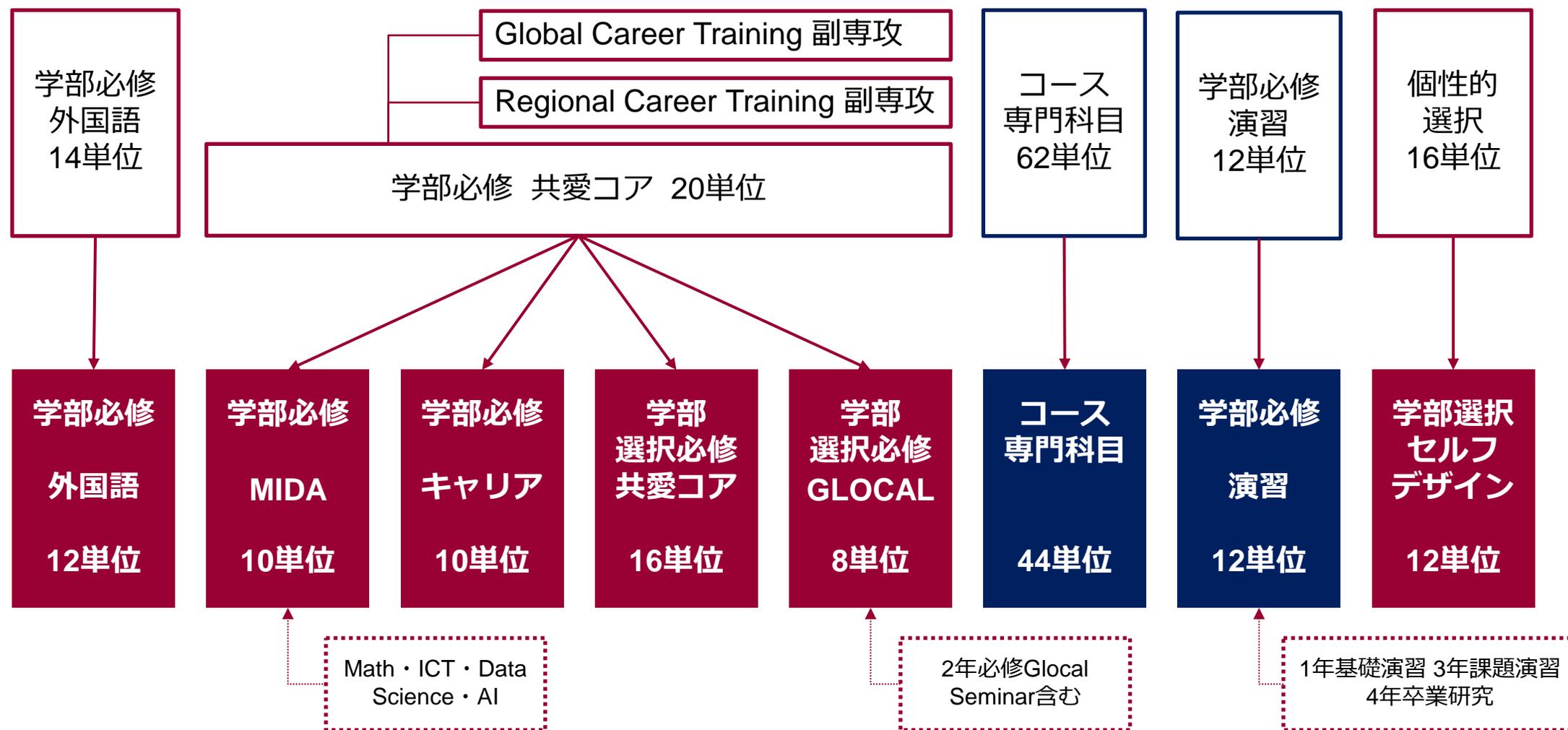
教育の質保証:12の力とDPの関係性整理

12の力	共愛コア	GLOCAL	GLOCAL Seminar	MIDA	外国語	キャリア	基礎演習	専門演習	コース専門	KCG
共生のための知識	●								△	
共生のための態度	●		●						△	
グローバル・マインド	●	●							△	
自己を理解する力						●			△	○
自己を制御する力		●						●	△	
主体性		●				●			△	○
伝え合う力			●		●				△	
協働する力			●				●		△	
関係を構築する力							●	●	△	
分析し、思考する力				●				●	△	
構想し、実行する力						●		●	△	
実践的スキル				●	●				△	
12の力	共愛コア	GLOCAL	GLOCAL Seminar	MIDA	外国語	キャリア	基礎演習	専門演習	コース専門	KCG
共生のための知識	0.33									
共生のための態度	0.33		0.33							
グローバル・マインド	0.33	0.33								
自己を理解する力						0.33				
自己を制御する力		0.33						0.25		
主体性		0.33				0.33				
伝え合う力			0.33		0.50					
協働する力			0.33				0.50			
関係を構築する力							0.50	0.25		
分析し、思考する力				0.50				0.25		
構想し、実行する力						0.33		0.25		
実践的スキル				0.50	0.50					
卒業単位	16	4	4	10	12	10	4	8	44	

DP達成とカリキュラム改革

~2022
480科目

2023~
346科目



卒業生調査

【調査対象者】 卒後1～6年目の卒業生 = 2016年3月～2021年3月卒業者

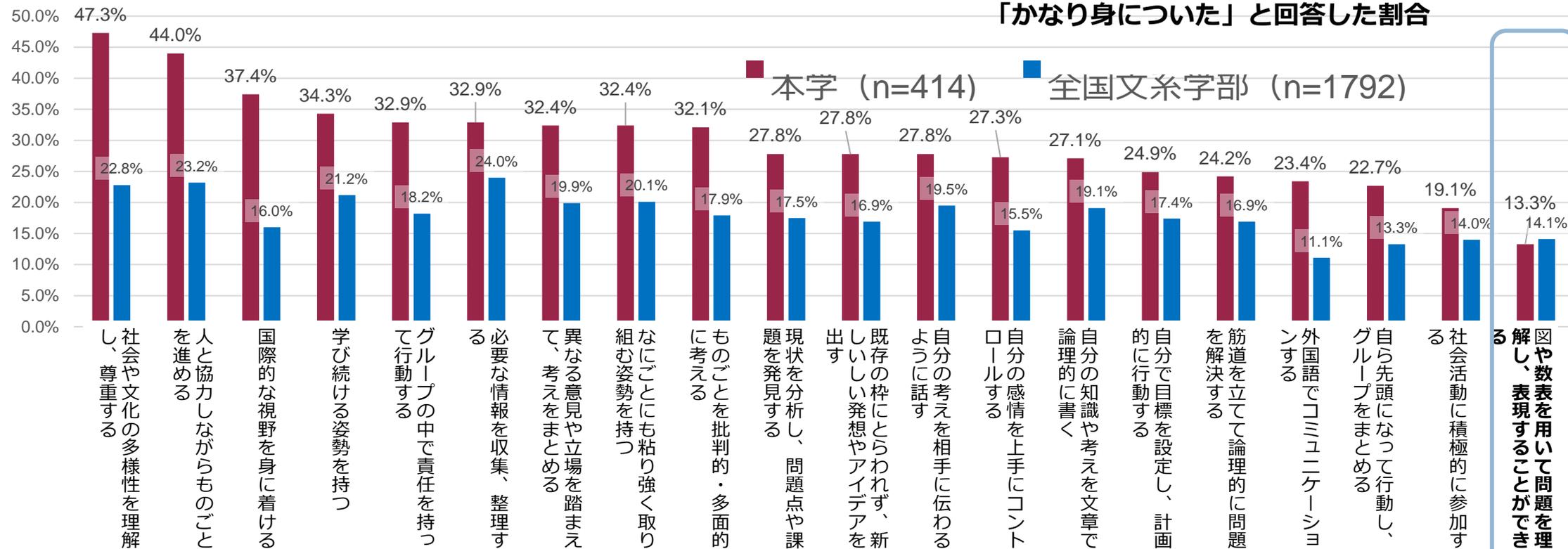
【調査期間】 2021年12月13日（月）～2022年1月11日（火）依頼状を自宅に送付し、WEBアンケートフォームにて実施・回収

【発送・回収数】 発送数：1,315名 有効回収数：414名（回収率31.5%）

※外部機関に委託し、全国データとの比較も依頼

Q.大学生活全体を通じて、次のような力がどの程度身についたと思いますか。
かなり身についた／ある程度身についた／あまり身につけていない／全く身につけていない

（参考）各能力の習得度



チャレンジな科目はチャレンジな学生が履修する副専攻だった →全学生が履修する選択必修へ

科目群	単位
外国語	12単位以上
MIDA	10単位以上
共愛コア	16単位以上
キャリア	10単位
Glocal	8単位以上
セルフデザイン	12単位以上
コース専門	44単位以上
演習	12単位

共愛コア科目群

- 地域理解領域
 - 群馬を知る
 - 前橋市を考える
 - 地域と企業
 - 群馬の産業と社会
 - 群馬の環境政策
 - まちづくりデザイン
- 国際社会理解領域
 - 経済学概論 I
 - 経済学概論 II
 - 憲法 I
 - 憲法 II
 - SDGsと国際社会
 - 異文化理解
 - 教育と社会「教育原理 II」
- 共愛共生領域
 - キリスト教概論 I
 - キリスト教概論 II
 - 共生のリテラシー
 - ジェンダーとダイバーシティ
 - 男女共同参画論
 - 教育と心理「教育心理学」
 - 音楽と共生
 - キリスト教と多文化社会
 - 聖書の世界
 - 人権と共生
 - 教育と人間「教育原理 I」
 - グローカル・シティズンシップ

Glocal科目群

- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Glocal PBL領域 <ul style="list-style-type: none"> - Glocal Seminar • Local領域 <ul style="list-style-type: none"> - 取材型地域企業研究 - ボランティア - 企業人オムニバス講座 - 地域課題発見実践 - 地域プロジェクト演習(児童向けGWS) - 地域プロジェクト演習(自然体験支援) - 地域プロジェクト演習(共愛COCO) - 地域プロジェクト演習(スワローピック) - 地域プロジェクト演習(共愛ファーム) - 地域活性化演習(まちなか商店街) - 地域活性化演習(スローシティ) - 群馬で学ぶ - 前橋市で学ぶ - 地域とアート - 街づくり実践演習 | <ul style="list-style-type: none"> - 地域アドバンス演習(自然体験支援) - 地域アドバンス演習(共愛COCO) - 地域アドバンス演習(スワローピック) - 地域アドバンス演習(共愛ファーム) - 地域活性化演習(過疎地域課題探究) - 地域活性化演習(絹織物) - 地域活性化演習(共生) - 地域活性化演習(スローシティ上級) - シティズンシップ演習 - 地域企業人の経営力を学ぶ - 長期インターンシップ - 介護等体験 | <ul style="list-style-type: none"> • Global領域 <ul style="list-style-type: none"> - 台湾異文化研修 - タイ異文化研修 - ミッショングローバル研修 - One on one オンライン研修 - ベトナム異文化研修 - ブルガリア・ルーマニア研修 - 語学研修(英語圏 I) - 語学研修(英語圏 II) - 語学研修(英語圏外 I) - 語学研修(英語圏外 II) - Global Learning A - Global Learning B - 中期海外研修 - 長期海外研修 - 海外教育研修 - 海外長期インターンシップ |
|--|---|--|



情報公表って？

数字を出すだけが、
情報公表なのか？

学びの物語

—どこで、誰と、何をやって、
どんな思いをもって、どんな力
を身につける成長をしたか—
がビジュアルに語られていくこ
とも重要な情報公表であり、そ
れを学生自身や広報が語るこ
とで、学生確保につながっていく
・・・

教育・学修の質向上に向けた新たな評価の在り方 ワーキンググループ 議論の整理

第2部 新たな評価制度の基本的な枠組み

1. 評価の主体【誰が評価するのか】

- 大学教員らを中心とした評価委員会による定性的評価（ピア・レビュー）を基本とし、産業界や高校関係者等の参画を促進する。また、学生代表者の評価への参画も検討する。
- 評価機関が複数存在する場合、評価の基準・観点のばらつきをなくすための調整組織の設置を検討する。
- 評価機関に対して認証を与えた文部科学大臣が評価が適正に行われているか確認するシステムを設けることも検討する。

2. 評価対象【評価する単位・対象はどこか】

- 養成すべき人材像やディプロマ・ポリシー等に照らして学生が学修成果を上げられているかという点の可視化を行うために、学位の分野に基づく学部・学科、研究科ごとの教育の質の評価を重視する制度の設計に向け、引き続き議論を進めていく。

3. 評価の視点【何を評価するか】

- 「新たな評価」では、養成すべき人材像やディプロマ・ポリシーに照らして学生が必要な学修成果が上げられているかという点を可視化し、教育改善へ活用がなされているかという点を評価の中心に据え、この観点からの評価に注力できるよう検討する。
- また、これらの観点について項目・指標等を共通化するとともに、具体的な評価基準・項目、指標等のモデルを示すことを引き続き検討する。
- 学修成果の可視化については、ディプロマ・ポリシーを達成目標として、成績等の直接評価と学生アンケート等の間接評価の双方の観点で行うことを検討する。
- 国際的な評価や先行している分野別評価については、「新たな評価」との関係性を整理し、これまでの取組が損なわれないよう検討する。
- 「新たな評価」制度導入において、ディプロマ・ポリシー等の再検証を実施することを検討する。

4. 評価手続【どのように評価するのか】

- わかりやすく、かつ、改善につながる段階別評価の導入を検討する。その際、課題の追求・指摘ではなく、自己改善につながる評価（絶対評価）にすることを検討する。
- 評価手続の効率化のため、データベースの構築・活用を検討する。実地調査は、実施義務を撤廃し一定の条件下のみの実施の方向で検討する。

5. 評価結果の公表・活用【どのように公表・活用するか】

- 評価結果を一元的に公表し、公表内容やフォーマットは統一することを検討する。
- 評価結果については、例えば資源配分等の国の政策に活用することや、段階別評価において高い評価を得た機関に対する受審期間延長等のインセンティブを検討する。

全国学生調査ポジティブリスト

共愛学園前橋国際大学国際社会学部（社会分野）がランクインした項目

順位	アンケート項目
4位	Q9:ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。
5位	Q21:他者と協働する力
8位	Q7:グループワークやディスカッションの機会がある
9位	Q27:大学の学びによって成長を実感している。
10位	Q15:文献・資料を収集・分析する力
11位	Q17:人に分かりやすく話す力 Q26:教職員が熱心に教育に取り組んでいる。
12位	Q6:課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。 Q8:質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。 Q13:専門分野に関する知識・理解 Q14:将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観 Q23:異なる文化に関する知識・理解
14位	Q22:幅広い知識、ものの見方
16位	Q4:理解がしやすいように教え方が工夫されていた
18位	Q5:予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される Q20:問題を見つけて解決方法を考える力 Q24:卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。
24位	Q25:授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。
ランク外	Q10:インターンシップ（5日間以上） Q11:海外留学・海外研修（短期も含む） Q12:主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く） Q16:論理的に文章を書く力 Q18:外国語を使う力 Q19:数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能

全24項目中18項目（75%）で、
上位15%内にランクイン

ポジティブリストの趣旨

全国学生調査の結果について、学生に高い評価を受けた上位校一覧とその教育方法・教育改善の事例を公表することで、各大学において上位校との比較分析を踏まえた教育改善に活用することや、大学進学希望者やその保護者あるいは地域社会、産業界、海外の留学関係者等に、大学に対する理解を深めてもらうことを目的として実施。
※ポジティブリストの公表は、今回が初となる試行的な取組であり、掲載校数等、本格実施に向け更に検討を進め、必要な改善を行う。

集計基準に合致した学部（学科）について、以下の分野別に一覧化
□大学「人文」（94）、「社会」（185）、「理学・工学、農学（4年制）、農学（6年制）」（152）、「医学（6年制）、歯学（6年制）、薬学（6年制）、保健」（169）、「教育、スポーツ、芸術、家政」（136）、「その他」（67）
□短期大学（106） ※カッコ内の数字は基準合致した学部等の数

ポジティブな選択肢から4点～0点に換算し、質問項目ごとの平均点を算出したうえで、集計基準に合致した大学・短期大学の学部（学科）の上位15%以内を上位順に掲載

全国学生調査のページ

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/chousa/1421136.htm

ポジティブリストのファイル

https://www.mext.go.jp/content/20250930-koutou02-000001987_2.pdf

全国学生調査ポジティブリスト

産業能率大学がランクインした項目

質問項目	順位/学部
Q4.理解しやすいように教え方が工夫されていた	全国4位/経営学部
Q5.予習・復習など時間外に行う学習指示される	全国1位/情報マネジメント学部 全国2位/経営学部
Q7.グループワークやディスカッションの機会がある	全国1位/経営学部 全国7位/情報マネジメント学部
Q8.質疑応答など教員等との意見交換の機会がある	全国27位/経営学部
Q9.ティーチングアシスタントなどによる授業支援がある	全国7位/情報マネジメント学部 全国12位/情報マネジメント学部
Q12.主に英語で行われる授業の履修	全国28位/経営学部
Q13.専門分野に関する知識・理解	全国25位/情報マネジメント学部
Q14.将来の仕事につながる知識・スキル・態度・価値観	全国6位/情報マネジメント学部 全国14位/経営学部
Q15.文献や資料を収集・分析する力	全国28位/情報マネジメント学部
Q17.人に分かりやすく話す力	全国3位/情報マネジメント 全国7位/経営学部
Q19.数量・統計・データサイエンスに関する知識・技能	全国5位/情報マネジメント学部
Q20.問題を見つけて解決方法を考える力	全国3位/情報マネジメント学部 全国4位/経営学部
Q21.他者と協働する力	全国3位/経営学部 全国6位/情報マネジメント学部
Q22.幅広い知識・ものの見方	全国14位/情報マネジメント学部 全国21位/経営学部
Q25.授業アンケート等の学生の意見を通じて教育が良くなっている	全国13位/情報マネジメント学部
Q26.教職員が熱心に教育に取り組んでいる	全国20位/情報マネジメント学部
Q27.大学での学びによって成長を実感している	全国13位/情報マネジメント学部 全国20位/経営学部

産業能率大学が文部科学省「令和6年度 全国学生調査」で高い評価を獲得

“グループワーク・ディスカッションの機会”では全国1位ほか、計17項目で上位ランクイン

■本学の評価結果
本学は「社会分野（185学部中上位15%）」に分類され、24項目中17項目でポジティブリストに掲載されました。そのうち多くの項目で10位以内に入り、特に「グループワークやディスカッションの機会がある」では経営学部が1位、情報マネジメント学部が7位、「予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される」では情報マネジメント学部が1位、経営学部が2位と、両学部ともに上位を占めました。

https://www.sanno.ac.jp/news/pressrelease/20251111_01.html

IRへの期待 地方大学の学長視点で・・・

IRへの期待①

どんな科目／
教育プログラムが、受験生
に刺さっているのかを明らか
にしてほしい

IRへの期待②

適正規模を教
育効果、財務、
地域データな
どから導き出
してほしい

IRへの期待③

規模縮小が、
質の向上に寄
与しているエ
ビデンスを提
供してほしい

IRへの期待④

地域の様々な
データ(産業・
人口動向・地域
大学の規模や
分野・・・)を総
合し、地域の適
正規模や必要
な分野／余剰
な分野などを
分析してほしい

IRへの期待⑤

地域から大学
がなくなった
場合、地域に
どのようなイ
ンパクトを与
えるのか分析
してほしい

大森 昭生 共愛学園前橋国際大学・共愛学園前橋国際大学短期大学部 学長

1968年、宮城県仙台市生まれ。東北学院大学文学部英文学科、同大学院博士課程にて研究。1996年に学校法人共愛学園に入職、共愛学園前橋国際大学国際社会学部長、副学長等を経て、現職。専門はアメリカ文学で特にヘミングウェイを研究。文部科学省中央教育審議会の各種委員、内閣官房の各種委員等の他、群馬県青少年健全育成審議会会長、同教育振興基本計画策定懇談会座長等地域における各種公的委員を多数務め、各地での講演多数。3児を育てており、二人目・三人目出産に際し育児休業を取得。群馬県総合表彰(男女共同参画分野)。

全国の学長が注目する学長ランキング4年連続1位(大学は教育で注目する大学6位)(大学ランキング2023/2024/2025/2026)。

略歴

- 1996年 共愛学園女子短期大学専任講師
- 1999年 共愛学園前橋国際大学専任講師
- 2003年 共愛学園前橋国際大学国際社会学部長・同助教授
- 2004年 埼玉大学教育学部非常勤講師(～2011年)
- 2005年 群馬県立女子大学非常勤講師(～2014年)
- 2007年 共愛学園前橋国際大学教授
- 2013年 共愛学園前橋国際大学副学長
高崎経済大学非常勤講師(～2015年)
- 2016年 共愛学園前橋国際大学学長・学校法人共愛学園理事
- 2019年 学校法人東北学院評議員
- 2021年 共愛学園前橋国際大学短期大学部学長(兼務)
- 2025年 学校法人共愛学園 副理事長

著書等

- 『群馬県男女共同参画社会作りのための副読本～未来～／～なかま～』(共著)2002年
- 『男女共同参画時代における子育て支援者養成ガイド』(共著)2003年(日本女性学習財団)
- 『地域に愛される大学のすすめ』(インタビュー形式で参画)2011年(三省堂)
- 『アーネスト・ヘミングウェイ—21世紀から読む作家の地平』(共編著・編集委員長)2011年(臨川書房)
- 『ヘミングウェイ大事典』(共編著・編集委員)2012年(勉誠出版)
- 『「深い学び」につながるアクティブラーニング』(河合塾編・共著)2013年(東信堂)
- 『「大人になることのレッスン」—「親になること」と「共生」』(共著)2013年(上毛新聞出版部)
- 『今選ぶなら、地方小規模私立大学!「偏差値による進路選択からの脱却」』(共著)2018年(レゾンクリエイト)
- 『ヒッピー世代の先覚者たち：対抗文化とアメリカの伝統』(共著)2019年(小鳥遊書房)
- 『ヘミングウェイ批評：三〇年の航跡』(共編著)2022年(小鳥遊書房)



公的委員等歴(終了したものを含む主な事項のみ掲載・下線太字は現任)

国・その他

- 日本成長戦略本部人材育成分科会
- 文部科学省 中央教育審議会
教育振興基本計画部会委員
大学分科会委員
大学分科会高等教育の在り方に関する特別部会副部会長
大学分科会質保証システム部会委員
教学マネジメント特別委員会委員
認証評価機関の認証に関する審査委員会座長
- 2040年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議委員**
- 地域大学の振興に関する有識者会議座長
- 文部科学省「**知識集約型社会に資する人材育成プログラム**」委員
- 文部科学省「**地域活性化人材育成事業～SPARC～**」委員
- 文部科学省「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増に関する審査会」委員
- 日本高等教育評価機構 大学評価判定委員会委員
- 内閣官房 「地方創生に資する魅力ある地方大学の実現に向けた検討会議」委員
- 内閣官房 「地方大学・産業創生法施行状況検討に係る有識者会議」委員
- 経団連 採用と大学教育の未来に関する産学協議会委員(地域活性化人材育成分科会)
- 私立大学協会私立大学基本問題研究委員会「教育研究充実部会」委員**
- 立命館アジア太平洋大学外部評価委員長・尚綱学院大学外部評価委員長・創価大学外部評価委員・京都文教大学外部評価委員
- 「ひらく日本の大学」調査アドバイザー(朝日新聞・河合塾)
- 日本ヘミングウェイ協会評議員・事務局長

県

- 群馬県青少年健全育成審議会会長
- 群馬県教育振興基本計画策定懇談会座長
- 群馬県教育委員会の点検・評価委員会座長**
- ぐんま子どもの未来県民会議委員**
- 群馬県男女共同参画推進委員会会長
- ぐんま男女共同参画センターアドバイザー
- ぐんま教育DXコンソーシアム運営協議会委員**
- 「GUNMAグローバル人材育成事業」運営協議会委員**
- 群馬県立桐生高等学校SSH運営指導委員
- 群馬県立前橋高等学校SSH運営指導委員
- 群馬県立中央中等教育学校SGH運営指導委員
- 福中県立三國高等学校「地域との協働による高等学校教育改善推進事業」運営指導委員
- 群馬経済同友会幹事・次世代育成副委員長**

市町村

- 県都まえばし創生本部有識者会議座長
- めぶくプラットフォーム前橋副会長・運営委員長**
- 前橋市デジタル田園都市国家構想アーキテクト総括
- 前橋市社会教育委員
- 前橋市アーバンデザイン策定懇談会座長
- 前橋市 市街地活性化専門委員会アドバイザー
- 太田市立高校グローバル推進実行委員会副会長
- 前橋市立駒形小学校学校評議員
- 前橋市立木瀬中学校PTA幹事
- 前橋まちづくり公社理事
- 前橋市国際交流協会理事
- 前橋デザインコミッション理事
- めぶくグラウンド株式会社取締役会議長